

『発掘 宇治 , 18』

平成30年度 発掘調査・文化財速報



宇治市街遺跡発掘調査 (9月~11月)



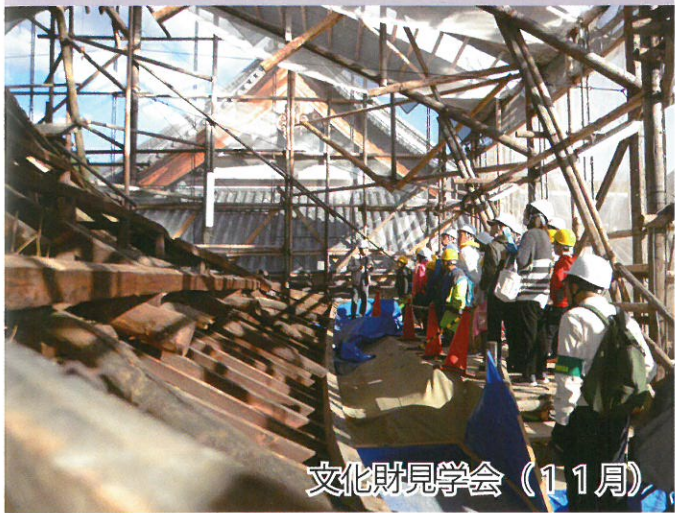
二子山古墳フォーラム (3月)



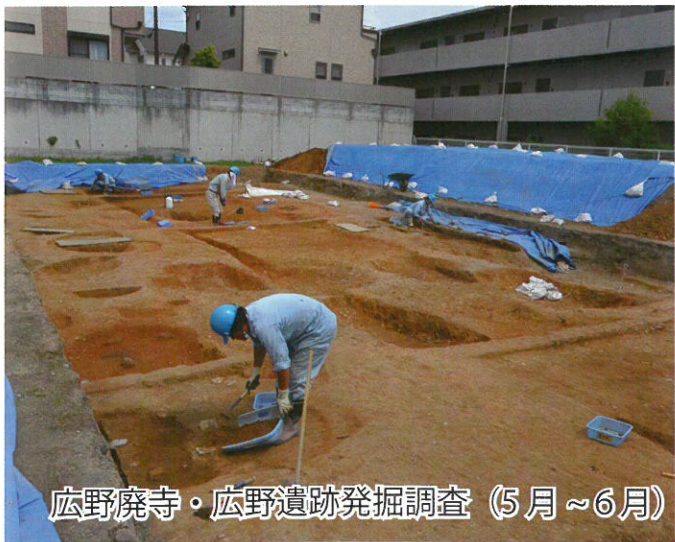
史跡宇治川太閤堤跡発掘調査 (7月~11月)



大幣神事 (6月)



文化財見学会 (11月)



広野廃寺・広野遺跡発掘調査 (5月~6月)

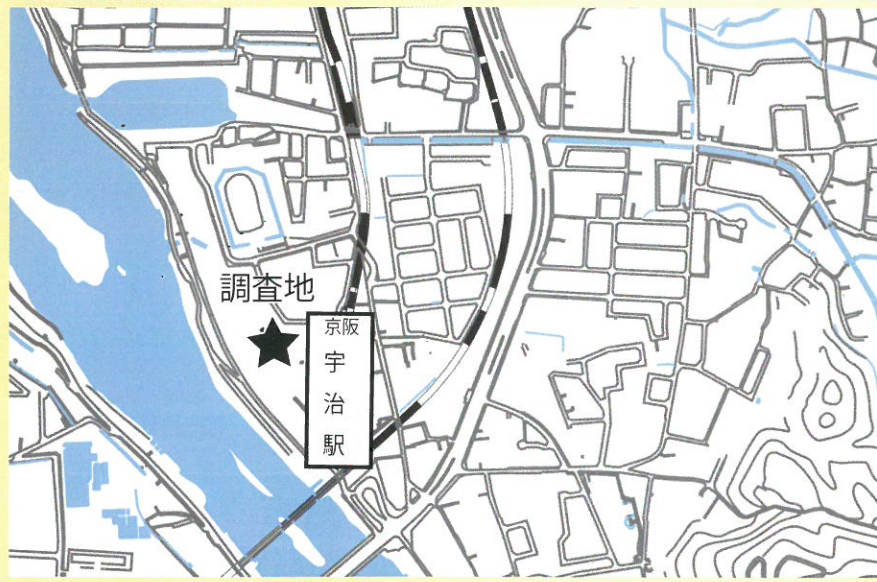


庵寺山古墳一般公開 (6月)

史跡宇治川太閤堤跡発掘調査

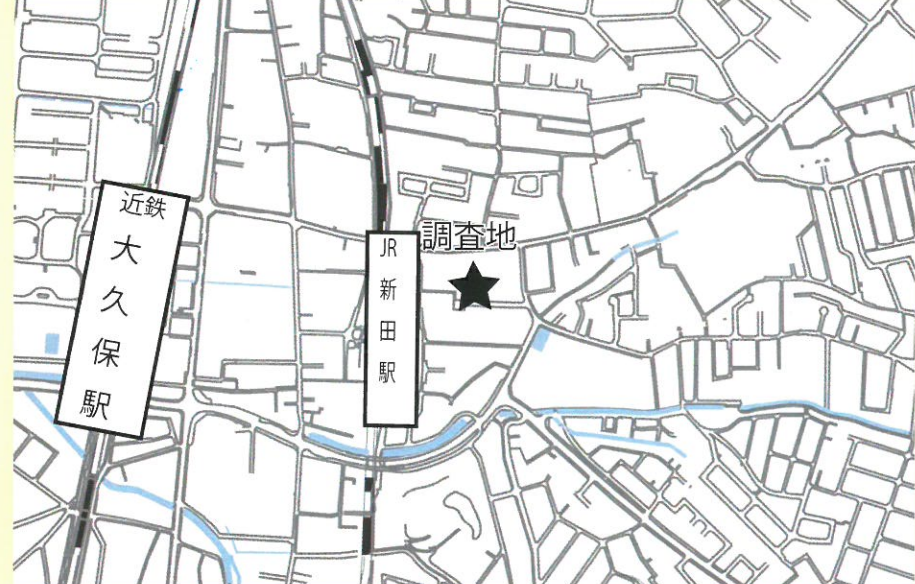
太閤堤築造は、天下人となった豊臣秀吉が、宇治から伏見、淀を経て大阪に至るまでに施した一大土木工事です。これにより、伏見付近に陸運・水運のネットワークを造りました。「宇治川太閤堤跡」は、このうち宇治川部分の護岸や水制施設を指しています。宇治市では、平成21年度に国の史跡に指定された宇治川太閤堤跡の史跡公園への整備を目指して確認調査を連続して行ってきました。

平成30年度の調査では、豊臣秀吉が築かせた当初の護岸施設と、その護岸が洪水で流されてきた土砂に埋まった後に造りなおされた護岸を確認しました。下の写真の奥で壁状に石が積まれている様子が写っていますが、これは昨年度（平成29年度）に調査した水制遺構である石出し4の一部です。今回の調査はこの水制遺構の下流部にあたる地点で行いました。



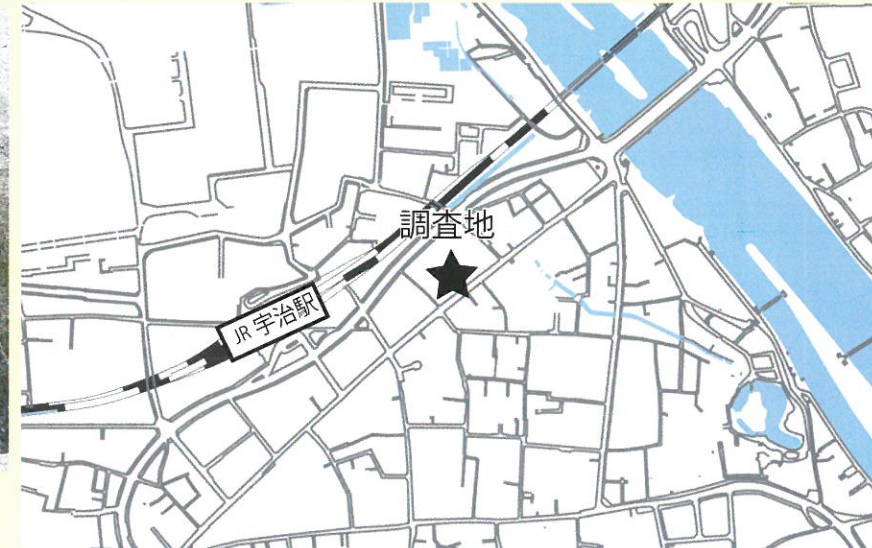
広野廃寺・広野遺跡発掘調査

集合住宅の新築に伴う発掘調査を行いました。この場所には、飛鳥時代後期～奈良時代にかけて広野廃寺が存在しました。その他にも、寺の建立前後に存在した集落遺跡である広野遺跡も広がっています。今回の調査でも広野廃寺に関わる瓦等の遺物が出土しました。遺構としては、東西方向に通る道状の遺構を確認しました。これは広野廃寺に関係するものと考えています。



宇治市街遺跡発掘調査

建物の建替えに伴う発掘調査を所謂「中宇治」地域内で行いました。この場所は、江戸時代中ごろに描かれた絵図（宇治郷総絵図）より、当時の宇治代官であった「上林六郎」の邸宅があったことが分かっています。今回の調査では、重なりあう二条の水路を確認しました。この他にも平安時代の土師器を含む池状の堆積や、平等院と同じ型式の軒丸瓦が出土しています。

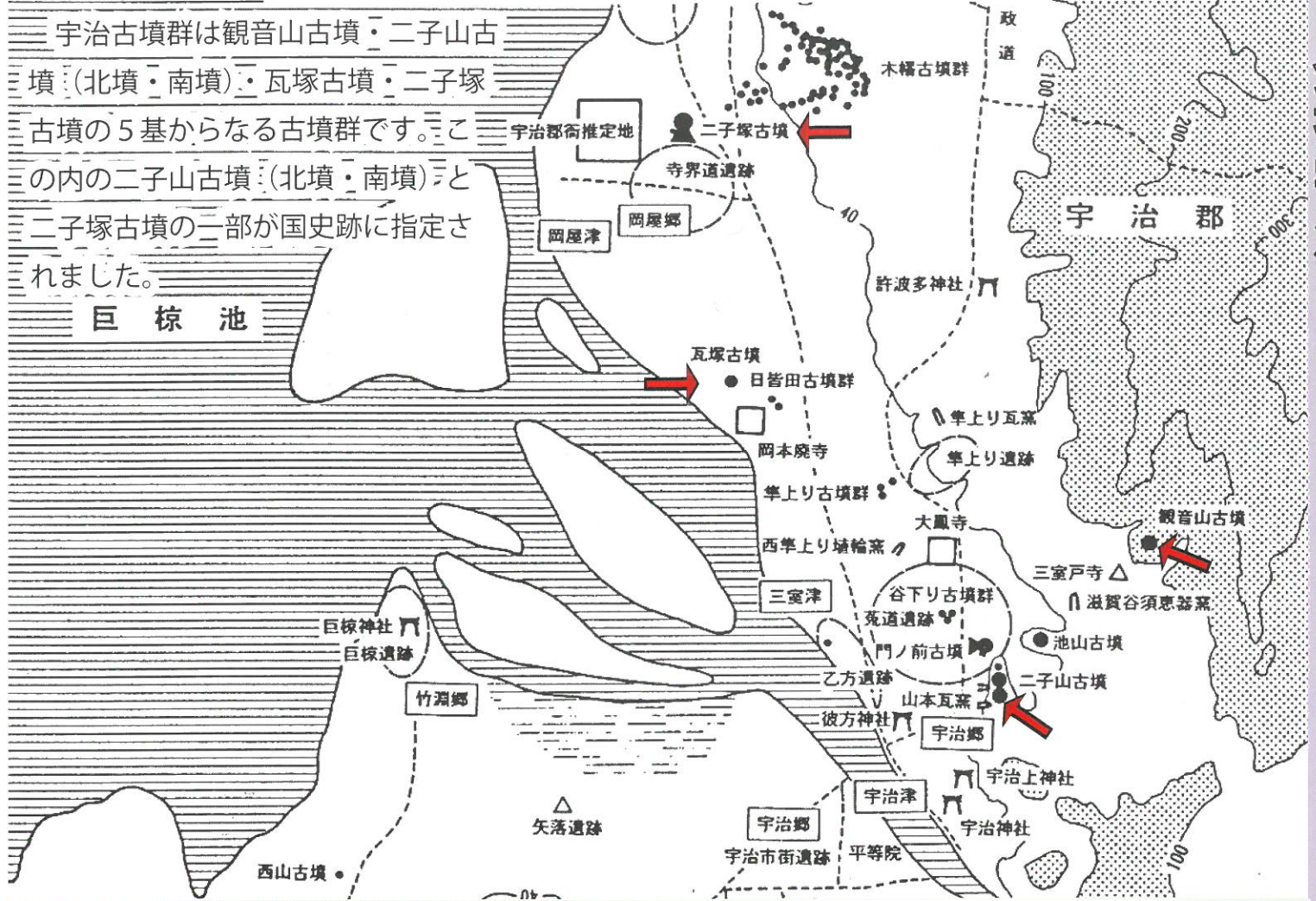


上下二条見つけた水路のうち、下の水路。

■ 史跡 宇治古墳群

宇治古墳群は観音山古墳・二子山古墳(北墳・南墳)・瓦塚古墳・二子塚古墳の5基からなる古墳群です。この内の二子山古墳(北墳・南墳)と二子塚古墳の一部が国史跡に指定されました。

巨椋池



■ 名勝 宇治山

宇治川が峡谷から出て氾濫原低地を形成する地域は、古くから交通の要衝であり、平安時代には貴族の別業が営まれ、優れた名勝地として広く知られてきました。「宇治山」はその谷口を巡って峰を連ねる仏徳山、朝日山などを含む丘陵地の総称です。

